



2025年5月1日
ハレルヤ保育園

5月は、体が暑さに慣れていないので熱中症にご注意！です。登園前に水分補給をしっかりと。日中との寒暖差があるので登降園時には上着を活用し、園用には 半袖や七分袖、薄い素材の長袖 T シャツの準備を多めにお願いします。

しょねつじゅんか

暑熱順化を知っていますか？



暑熱順化とは、体が暑さに慣れることです。暑い日が続くと、体は次第に暑さに慣れて（暑熱順化）、暑さに強くなります。暑さに慣れていないと熱中症になる危険性が高まります。体が暑さに慣れること（暑熱順化）について知り、暑くなる前から熱中症の対策を行いましょう。

1. 水分を多めにとろう

新陳代謝が活発なため、汗や尿として体から出ていく水分が多く、脱水を起こしやすい体です。水分を多く含む食事や、定期的な水分補給を心がけましょう。

2. 熱や日ざしから守ろう

自律神経の働きが未熟で、放熱や発汗による体温調節がうまくできません。熱のこもらない素材や薄い色の衣服を選んだり、日光を遮る帽子などを身につけたりさせましょう。また、地面からの熱も受けやすくなりますので、注意が必要になります。

3. 暑い環境に置き去りにしないようにしましょう

「寝ているから」「ちよっとの時間だから」と放置することは危険です。特に、車内に置き去りにすることは絶対にやめましょう。

4. 室内あそびも油断しないようにしましょう

日差しがない屋内では大丈夫だろうと油断しがちです。屋外と同じ対策を意識しましょう。

5. 周りの大人が気かけよう

汗や体温、顔色や泣き方など赤ちゃん、子供の様子を、周りの大人が気かけましょう。

尿検査のお知らせ

提出日 5月16日（金）（朝9時までに提出）

予備日 21日（水）（朝9時までに提出）

検尿提出日の1週間前には、ご案内と容器を配布させていただきますので、よろしくお願いします。

自立に大切な「トイレットコミュニケーション」

排泄の自立に大事なのはコミュニケーションの積み重ね

赤ちゃんが泣くと「お腹が減ったのかな？」などと言葉にして関わります。赤ちゃんは、最初は「お腹が減る」という感覚さえも理解できない状況ですが、言葉で話しかけられ、おっぱいやミルクをもらって、お腹がいっぱいになるという経験をくり返すことで、感覚と意味と言葉を結び付け、訴えれば大人が応えてくれて、不快な状態から快適な状態にしてくれることを学びます。そして、このやりとりが親（療育者）との信頼関係、すなわち愛着関係を構築していくのです。排泄のケアも同様に、赤ちゃんの尿意や便意に共感し、「おしっこかな？」「出そうかな？」と言葉で関わっていくことが大切なのです。

排泄の自立には、まず子供が自分で尿意や便意をコントロールできるようになることが大切です。そのためには**大人が子供の尿意や便意に寄り添う態度が必須**です。



溶連菌感染症の症状 ～大人と子供の違い～

溶連菌感染症は大人も感染します。特に体力が低下している時は感染のリスクが高くなると言われており、溶連菌感染症にかかったお子さんの看病をした親も感染して受診する例が多いようです。お子さんが溶連菌感染症の場合、兄弟で50%、親で20%の感染のリスクがあるという報告もあります。喉の痛みや扁桃炎の症状は、大人は子供に比べて症状が軽いことが多く、抗生剤の内服治療をしなくても自然治癒する場合もある為、単なる風邪と思い、溶連菌感染に気付かないこともあります。

4月の感染症報告（4/1～30）

ウィル性腸炎	3名
突発性発疹	1名
溶連菌感染症	3名
アデノウイルス感染症	1名